

CSR委員会・社外委員からのコメント

CSRの重要方針の立案・推進と取り組みの検証を目的として、「CSR委員会」を3カ月に1回開催しています(P.34参照)。同委員会では3名の社外委員から「社外からの目」で意見をいただき、委員である社内の役員とともに議論を重ねています。2012年度の議論を踏まえた、社外委員からのコメントを紹介します。



シャープ株式会社 特別顧問
辻 晴雄

お客様目線で、目配り、気配り、心配りを

2年前の東日本大震災と原子力発電所の事故を契機に、「省エネ・創エネ」や「安全・安心」の重要性が地球環境問題とは違った形で浮き彫りになりました。こうした中、積水ハウスの「グリーンファースト」は新築戸建住宅の8割を超え、これを基本にしたスマートハウス、スマートシティの開発にもいち早く取り組むなど、社会のニーズに即応した成果を挙げられていることをうれしく思います。「CSRは事業そのもの」と言われますが、まさに、この取り組みは、事業活動の中に組み込まれた真のCSR経営と言えます。

グローバル化が進み、変化のスピードがますます速まる中で、事業経営に必要なことは、お客様目線で「目配り」と「気配り」と「心配り」をすることです。「目配り」とは、目で見えてわかることに、きっちり対処していくこと。「気配り」とは、より一歩踏み込んで、お客様のためにアレンジを加えた対応をすること。さらに「心配り」とは、お客様のニーズや思いのさらに奥にあるものを察して、それを一足先かなえていくことです。

全員がこれを実践し、積水ハウスの企業価値やCSRの目指すレベルをより一層高められるよう期待しています。

CSR委員会での コメントから

好業績の今だからこそ、問題の発生には注意すべきである。コンプライアンスを繰り返し徹底する等、「守りのCSR」として内部統制の強化に取り組んでいただきたい。また、中期経営計画では2014年度に売上高の1割を国際事業が占めるとのことだが、海外におけるCSR活動のレベル向上にも取り組んでいただきたい。



甲南大学 特別客員教授
加護野 忠男

金融サービスとCSR

お客様が欲しておられるサービスを提供し、それに対する対価を受け取り、そこから利益を頂戴するのが、長期にわたって持続できるCSRの基本です。環境問題への対応や建物の価値向上に関して積水ハウスは業界トップレベルのサービスを提供しています。この分野のCSRでは業界トップであるし、日本企業の中でも最も進んでいるとも言えます。だから、さらにできることは限られていると見えるかもしれませんが、しかし、事業の周辺を見ると、まだまだなすべきことは残っています。その多くは金融サービスと係わるものだと私は見えています。住宅のような高額商品の場合、販売と金融は不可分です。海外と比べると、日本の住宅ローンは、借り手のリスク負担が大きいたことが問題です。その負担を軽減するために住宅メーカーができることはかなりあります。このような金融サービスとの結びつきは、太陽光発電やコージェネレーションに関しても存在します。ここで効果的な金融商品を開発できれば、借り手や投資家に大きなベネフィットを提供することができます。今後はこの分野での金融商品開発を期待したいです。

CSR委員会での コメントから

50年後、日本は人口が減って新しい住宅を建設する必要がなくなっているかもしれない。その時に積水ハウスはどのようなビジネスを展開しているのだろうか。一つは海外事業、そして一つはストックビジネスではないか。ストックビジネスの展開に向けて、サービスで収益をあげることができる準備をしておく必要があるのではないかな。



弁護士
加納 駿亮

積水ハウスのなでしこを応援する

サッカー日本女子代表「なでしこジャパン」の大活躍は、世界に日本女性の強さと素晴らしさを強く印象付けました。そして、経済大国の座をすべり落ちたかのように、自信を失いかけていた日本人に再び立ち上がる勇気と自信を与えてくれました。今、我が国が直面する急速な少子高齢化と労働人口の減少に対処するには、社会のあらゆる分野で女性の積極的活用が求められています。ただ、そのためには、家庭・育児と仕事との両立を支援し、女性が働きやすい環境・仕組み作りが必要です。積水ハウスは2013年2月、女性人材の活用を積極的に進めている企業として東京証券取引所の「なでしこ銘柄」に選定されました。このことは、CSR活動の視点からも大いに評価できることです。積水ハウスの強みは、抜きん出た先進技術と高度な施工力を有する住まいのリーディングカンパニーとして、脇目も振らずに本業の深耕に注力しているところにあるように思います。そこに「なでしこ社員」の活躍が加われば、企業としての活力は倍加することでしょう。

CSR委員会での コメントから

今後、高齢化を背景に、ますます安全・安心が注目されていくだろう。資金をお持ちになっているお年寄りが費用を出して若い世代と一緒に暮らすというスタイルが今後増えていくのではないかな。高齢社会にとって安全・安心な住まいをどんだん世の中に提供してほしい。住宅に特化して事業を推進していることが積水ハウスの強みである。トップメーカーとして品質をさらに深めていただきたい。